



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2010年2月号

「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「一つとなる力」
 アジア地域会長 : 「一つとなる力」・「夢見るアジア、愛するアジア」
 西日本区理事 : 「すべてのいのちを大切に」・「いのち・平和・環境」
 中部部長 : 「ワイズの理念を胸に自信を持って活動しよう」
 プラザクラブ会長 : 「仲間と共にワイズを楽しもう」

【TOF・CS・FF＝TOF・CS・FF資金はワイズ活動のエネルギーの源、おおいに活用しましょう。】

2月例会・今後の予定ご案内

【2月第1例会 (TOF)】

日時：2月10日 (水)・18:45-
 場所：勝美屋 (集合)
 内容：(1) お年玉当せん切手シート収集
 (2) 反省会

【2月第2例会】

日時：2月25日 (木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：次月例会打ち合わせ
 出席者：役員 (鈴木・榎田・高田)
 (義務者) 3月担当者 (大島・後藤)
 4月担当者 (高田・島崎)

【今後の予定】

- 名古屋クラブ第1例会 (講演会)
 日時：2月9日 (火)・18:30-
 場所：名古屋YMCA 3F会議室
 内容：「世界の飢餓を考える」日本国際飢餓対策機構
- 3月第1例会
 日時：3月11日 (木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
- 中部評議会
 日時：3月22日 (月・祝)・13:00-
 場所：未定
- 3月第2例会
 日時：3月25日 (木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室

第13回西日本区大会

日時：2010年6月12日 (土)～13日 (日)
 場所：広島国際会議場 (大会会場)

◆インターネットをご利用の方は、上記西日本区中部ホームページの「名古屋プラザクラブ」をご覧ください。

1月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
直前会長	大島 孝三郎	○	○	◎	○
	小澤 幸男	○			○
書記	榎田 守隆	○	○		○
	後藤 猛	○	○		○
	島崎 正剛	○	○		○
会長	鈴木 誉三	○	○	◎	○
会計	高田 廣	○	○		○
	松永 裕子				
連絡主事	万福寺 昭美	○	○		○
M=メキップ	1. LLブック講演会 2. ハイチ地震災害支援街頭募金				
出席率合計・(算定合計/会員数) %					88.9
1. ニコボックス (円)		5460			9460
2. オークション		0			0
3. 切手		0			0
ファンド ・ 当月合計/累計 *ニコボックスの累計額が間違っていましたので訂正いたします。		5460			9460
◆次月号の寄稿者は大島さんです。 Eメール・moritaka_kushida@ybb.ne.jp					

1月第1例会報告

日時：1月14日（木）・18:45-21:00

場所：名古屋YMCA会議室

1. 鈴木会長挨拶

昨年は中部部会、部報発行など部会担当クラブとしてその準備・運営、またパレットキッズとの釣り会や老人ホームへの慰問などクラブ奉仕活動にご協力くださりましてありがとうございます。あと半年、引き続き部会に関する行事の開催などありますのでお手伝いをお願いします。

2. 西日本区大会に飾る千羽鶴・鈴木

森メネット事業主任から大会開催の際、千羽鶴を飾るため各クラブ1000羽を4月末までに送るようとの要請がありました。内容に不確か点がありますので、大島さんは森主任に小クラブは手間が大変なため、「クラブ1000羽は「必ず」なのかどうか」を一両日中に確認願います。回答があり次第大島、鈴木会長、メンバーの順に連絡する。

3. 横浜国際大会参加者・鈴木

西日本区の参加目標人数600人も現在60余人、多数の参加をお願いします。プラザ現在2人です。

4. リーフレット作成状況・榎田

南山YMCAのカラープリンターを使う。12月第2例会に指摘された文言、写真は修正する。裏面は過去に実施した行事の写真を掲載、作成作業は万福寺さんと1/28・3時よりYMCAで行う。

5. 2月第1例会・島崎／榎田

(略)

6. 部報発行・島崎

1月末・原稿締め切り

2月中旬・発行作業(日時未定)

3月22日・中部評議会開催

7. 卓話・森宗志保さん「LLブックについて」

1月16日に名古屋国際会議場で開催される「LLブック講演会」に際して、小中学校、養護学校、図書館、出版社などに出向き参加を呼びかけましたが、予定参加者の150人には及ばずまだ60人ほどです。

日本でのLLブックに対する認知度は低く、ネットで解説本を探したが1冊だけ出版されていました。しかもそこで紹介されているLLブックと称する本は、絵や写真、仮名が振ってある程度のもので、まだまだ日本では書き手が主体で読み手を対象にする、との考えはありません。読み易い図書は国連基準規則にも「政府は様々な障害を持つ人のために、情報や文書類を提供するように働きかけ、対策をたてるべきである」などすべての国民が等しく情報・サービスを受け入れられる体制、いわば民主主義の

精神を謳っている。

パレットキッズたちは講演会の案内チラシを作りましたし、会場の受付もさせるつもりです。今回の講演会は初めての試みです。講師はスウェーデン政府商務省、法務省、教育文化省にお勤め、やさしく読める図書関連の出版・発行、技術に従事するプロール・トロンバッケ氏です。多数の方のご参加をお願いいたします。



(ハイチ地震災害支援の街頭募金を三越百貨店前で行う)



(LLブック講演会、右側プロール・トロンバッケ氏)

1月第2例会報告

日時：1月28日（木）・18:45-20:30

場所：名古屋YMCA会議室

1. 年賀はがき当せん切手収集・鈴木

2月10日の第1例会に持参願います。

2. ハイチ地震災害への献金・鈴木

日本YMCA同盟からクラブ毎の依頼があり、1万円を献金する。

3. 千羽鶴献納・鈴木

西日本区大会に展示する各クラブ千羽鶴1000羽の件は本気です。各自所定サイズの折り紙を購入の上、1人110羽を折って100羽毎にイトを通し、万福寺さんに4月末日まで持参ください。

4. 名古屋クラブの卓話・鈴木

2月9日(火)午後6時半より名古屋 YMCA 3F 会議室にて「日本国際飢餓対策機構」の方の講演を行いますので参加をお願いします。

5. 中部評議会開催準備・島崎

評議会構成員に議案提出を依頼中、資料が揃い次第2月中に準備作業をお願いします。

6. 中部部会のイベント・大島

名古屋クラブの長井さんより、森本監事のマザー・テレサのお話を中央教会でどうか、との提案があった。森本監事に3月22日の都合を確認したところ承諾の返事、当日の中央教会の都合を長井さんをお願いした。

7. リーレット作成・櫛田

本日、万福寺さんの協力を得て完成、不都合がなければ100部作成する。

LLブック(やさしく読める本)を考える

子どものための愛知 AAC 研究所および名古屋 YMCA 主催、名古屋地区ワイズメンズクラブ、中日新聞など8団体が後援するLLブック(やさしく読める本)講演会は、スウェーデンの「やさしく読める図書センター所長」ブロール・トロンバツケ氏を講師にお迎えし、1月16日名古屋国際会議場で開催された。

名古屋 YMCA の軽度発達障がい児の教室を支援しているワイズの一員としての関心から、聴講してきました。参加者は70人ほどのうち約10人がワイズのメンバーでした。しかし話の内容は、身体的・知的障がい者他いろいろな人々から、さまざまな理由で読みやすい本や各種の情報媒体が、求められているという説明がありました。移民の方、教育を十分受けていない方、高齢者の方などです。まず、LLとはスウェーデン語のやさしく読めるという意味です。やさしく読めるためには内容・言葉・イラスト・レイアウト・字の大きさなど多くの問題があります。本のほかの媒体で、この取り組みの対象となるものには新聞・雑誌・生活情報・テレビやラジオの番組・Webサイトなどです。

要約すると広い範囲の人々に、容易に、社会参加しやすく、生活の質を上げられるように取り組んでいるのがスウェーデンの現状です。国連からの強い支持もあります。あらゆるジャンルのメディアに亘っています。何度も何段階かにまたがって用意されることもあります。この取り組みの根底にあるのは民主主義の精神です。

先進的にされているのは、北欧の社会福祉の発達

していることが背景にあるのではと思います。この講演会の司会を担当された YMCA のスタッフの森宗志保さんの言葉に、2010年が名古屋でのLLブックの元年になるのでは、とのフレーズがありました。(大島 孝三郎)

ハイチ地震被災地支援街頭募金

テレビ・新聞等でハイチ地震の悲惨な状況が毎日伝えられています、ハイチには青少年の為の社会教育活動を行うハイチYMCAがありますが、現在、連絡が取れていないとの事です。

日本のYMCAでは下記の緊急支援を行うことになりました

- ①緊急支援として2万ドルを世界YMCA同盟に送金した。
- ②全国のYMCAにて街頭募金を含む、募金活動を展開する。
- ③アジア、世界各国のYMCAと協力し、先遣隊の派遣を準備する。

名古屋YMCAより名古屋のワイズクラブ会長に緊急に街頭募金をするとの連絡があり、1月23日(土)に14:00に名古屋中央教会に集合し、栄三越百貨店付近の東西2箇所で開催されました。参加者は、ワイズメン・リーダー合わせて30人ほど、プラザからは大島・鈴木が参加。寒空の中、2時間ほど募金活動が行われましたが、地震が起こった直後の為か通行人の関心も高く、多くの方から支援をいただきました。

プラザクラブでも街頭募金とは別にどのような支援ができるか、例会で話し合う機会を設けたいと思います。

(鈴木 誉三)

新年を迎えて思う

今年の冬は近年になく冬らしい冬になった。最近話題になっている地球温暖化により名古屋で雪を見るのも珍しい昨今ですが、今冬年末には寒波が来て大晦日には雪が降る年末年始でした。思えば私達が幼少の頃は軒につららが下り、庭には霜柱が立ち、時には水道水が凍って水が出ないことが二、三回はあったような気がする。

新年を迎えてお酒を飲みながらそんな回想をしていた。又正月の過ごし方も今は昔と違って来た。のどかな広場や公園でタコ上げや羽根つき、部屋内ではカルタ取りやスゴロクを火鉢の回りで遊んだものだ。今の子ども達はまずテレビゲームや野外では

サッカー等、遊び方もずいぶん様変わりして時代の流れを感じる。

さて新年を迎えて毎年のことだが、今年こそは良い年にと年頭に当たり希望をこめて初詣をするのが、新年早々日本航空の破綻のニュース、半国営の会社がまさかと驚くばかりだ。ニュース等に依ると経営陣の放漫経営の様だ。今年こそは経済情勢も回復してほしいと願う。

又自分事だが先ず健康を維持することだ。その一環として毎朝ウォーキングをしている。始めて1年になる。三日坊主で終わると思っていたが、今でも続いている。約4kmを約50分で歩く、10分1200歩で約6000歩を歩く。寒い今でも下着が汗でぬれる程身体が温まる。お陰様で体重も4kg減り、胴回りも4、5cm細くなり、ズボンもだぶだぶになっている。又歩くのに色々ドラマがある。行き交うウォーカーに挨拶の声をかけると気持ちよく返す人、幾度と会って挨拶しても返答のない人色々だが、せめて返礼位はして欲しいものだ。逆に登校中の学生は明るい声で挨拶する子が多い。とても気分が良い、将来きっと立派な大人になってくれると思う。

そんな事を思いながら毎朝ウォーキングに励んでいる。そしてワイズの活動に出来るだけ参加しワイズをよく理解して、メンバーに相応しい人が知人にいたら紹介していきたいと思う。

(高田 廣)

聖書に由来する語句・慣用句・諺

【すべて生きて動くものはあなたがたの食物となるであろう。さきに青草をあなたがたに与えたように、わたしはこれらのものを皆あなたがたに与える。しかし肉を、その命である血のままで、食べてはならない。あなたがたの命の血を流すものには、わたしは必ず報復するであろう。いかなる獣にも報復する。兄弟である人にも、わたしは人の命のために、報復するであろう。(創世記9.3-5)】

【言語、文化、風俗、習慣、歴史などが異なれば、民族相互のコミュニケーションでの齟齬は避けられず、文字を介して原語を正確に伝え、理解させることは非常に難しい。世界の言語数6900の内、旧新約合わせて2479言語に翻訳されている大ベストセラ―聖書(2008年12月現在・日本聖書協会資料)にも“立派”な誤訳は存在する、らしい。ヘブライ語で記された旧約聖書が紀元前3世紀中葉から前1世紀の間、ギリシャ語に翻訳されたとき、「高きところ」を「血のままで」と誤訳した、と聖書学の権威秋吉輝雄氏は言う。ユダヤ人の祖先はもともと砂漠の民であり

神は幕屋(拝礼用のテント)に住み、民族とともに一緒に移動していたが、定住の時代になると定住地の家に住む神になり、やがて人々は礼拝のため各地各所の高きところにある神殿に行く。ヨシヤ王(ユダ王国の王・紀元前640-609年)は、「また、ユダの町々とエルサレムの周囲にある高きところで香をたくためにユダの王たちが任命した祭司たちを廃し、またバアル(カナン人の神)と日と月と星宿と天の万象とに香をたく者どもも廃した」。(列王記下23.5)そして、神殿はエルサレムに一本化された。「高きところで香をたく・・・」は、先に記した創世記の「血のままで」が正しければ、「血のままで香をたく・・・」で意味が通じない。逆に創世記の「血のままで」を正しい「高きところで」に置き換えると、お話の筋が通らず誤訳の指摘が怪しくなる。もし誤訳であれば、厳格な食生活を強いられる後世のユダヤ人にとっては迷惑な話である。(ぼくたちが聖書について知りたかったこと・小学館)】

Zoom・散歩

昨年6月ごろ、名古屋市から65歳以上はタダの健康診断の案内があり、行くつもりのまま忘れて年を越した。がん検診も同時に受けられるとのことで、12年前13個のポリープを切除した大腸と50年間吸い続けた肺の検査も一緒に正月明け早々指定病院に予約した。1月15日簡単な健診が終わり、3、4日して結果の通知が届いた。大腸も肺も問題はないが、身長が5ミリ縮み、体重が5.5キロ増え、腹囲は基準値をはるかにオーバーしてBMIは24、「積極的支援レベル」と散々な成績である。2年前、心臓カテーテル治療を受けて退院する際、主治医から適度な運動をすすめられた。以来晴れた日の朝、5000歩目安に散歩をしているが、時々喫茶店に寄ってコーヒーを飲んだのが祟ったらしい。高田さんの原稿を読んで一念発起、真面目に散歩する決心をした。今日は真剣に早足で休憩なしの7000歩を歩くつもりで家を出た。いつも追い抜いて先に行く迷彩服のじいさんの後姿を等間隔で見ながら、川沿いの散歩道を懸命に歩く。川で遊ぶコサギやカワウなどを立ち止まって見る閑はない。30分もすると汗ばんでくると同時に右足が痛くなり始めた。散歩道をそれて家に向かう坂の途中で電信柱に片手をつけて休む。わが家に戻り情けない姿にかみさんは、「太ったのは、酒と食べすぎよ」ときつい一言、「それは・・・」と言いかけてやめた。慣れないことを、思いつきで、いきなりする、のは危険なことを思い知った。「散歩道 俺流改め 足痛め」